

岩崎台熟年友の会～そのあゆみ(1998—2016年)

岩崎台熟年友の会は、1998年(平成10年)4月に発足しました。岩崎台区が97年10月に発足したのに伴い、新しい老人クラブを結成しようと、初代区長後藤龍一さん、2代目区長山本達雄さん、高橋昭三さん、廣達夫さん、山内雄作さんら当時60歳代の人たちが呼びかけました。日進市から補助金を受けるのに必要な50人を集め、会の名称を「岩崎台熟年友の会」として会則を作りました。老後を健康で心豊かに過ごし、世代間交流や奉仕活動などで地域との交流を深めるのが目的でした。会員数は18年後の2016年でも85人。創立当時、50人がよく集まったと驚きます。

「区になった当時、1丁目から3丁目の道路や空き地には不燃物や家庭のごみが散乱してほかの区の人から批判が出るほどだった。そのごみを毎日のように黙々と片付けていたのが高橋さん。地元で信頼されていた高橋さんが中心になって呼びかけたので、みなさんが協力してくれた」(山本達雄さん)

「当時、65歳以上の方が少なく、必要な50人に4、5人足りなかった。市に相談したら、間もなく65歳になる人でもいい、と言ってくれたので助かった。私も65歳前で、山本さんもそうだった」(会則をまとめた廣達夫さん)

「岩崎台熟年友の会」は、斬新な名称で会員に好評でした。しかし、同市への補助金申請書には「老人クラブ」を明記しなければ受理されず、やむなく「岩崎台老人クラブ(熟年友の会)」としました。市の担当課が考え方を改めて規約を変え、「岩崎台熟年友の会」で通用するようになったのは2013年度からです。会則も15年4月に一部改正し「岩崎台老人クラブ(熟年友の会)」から「岩崎台熟年友の会」としました。

日進市内には39の老人クラブ(会員総数6930人)があり、同市老人クラブ連合会(老連)に加盟しています。熟年友の会は98年に加入しました。岩崎台区の人口は5919人、65歳以上は687人。友の会の会員は83人なので、友の会への入会率は11・6%。老連の平均入会率は42%です(人数はいずれも15年6月現在)

歴代会長・副会長

友の会の初代会長は高橋さんで、6年間務めました。副会長だった廣さんは家庭の事情で途中で退任、山本千恵子さんが会計兼務で副会長を担当しました。2代目会長は、林順一さん(04年4月～06年3月)。副会長は石木宗夫さんと

山本千恵子さん。3代目会長が石木さん（06年4月～09年3月）。副会長は内林利幸さん→宮平博道さん→小林正弘さん、藤田淳子さん。4代目会長は小林さん（09年4月～11年3月）、副会長は青木寛治さんと藤田淳子さん。5代目は青木さん（11年4月～15年3月）、副会長・福西勉さんと藤田さん。

会長・副会長ら役員任期は、友の会会則で「1年とし、再任を妨げない」とありますが、会長は、2年以上が慣例になっています。13年度、14年度は市補助金算出方法の大幅変更、会則一部変更などで大変でしたが、副会長福西さんの優れた事務能力で円滑な運営ができました。

副会長は2人で、そのうち一人は女性会員から選出と会則で定めています。山本千恵子さんは、友の会創立時から7年間、会計も兼務して副会長を務め、会長を補佐しました。また、藤田淳子さんは、副会長として10年間も活躍していただきました。

会員数と補助金額

会員数は、99年63人、02年61人、06年64人、14年78人、16年85人。市からの補助金は、04年度12万2400円、06年度11万9200円、14年度12万2400円、15年度15万4000円。04年度以前の補助金額については、資料が市地域福祉課、老連事務局にも残っていませんでした。15年度に補助金額が少し増えたのは、補助金額の算出方法が一部変更になったのと、会員数が増えたためです。会員が100人以上になれば補助金はもっと多くなります。ただ、会員が増えれば支出も増えます。

年間事業

老連主催の福祉交流大会には第1回の2006年から参加。年2回の友愛訪問は、老連加入時から続けており、15年7月には14人を訪問しました。老連呼びかけの「社会奉仕の日 清掃活動」も加入時から始め、15年は岩崎台自治会環境衛生委員会と合同で、もみじ公園内外の清掃をしました。毎年続けている健康教室、交通安全教室も老連からの提唱です。

年1回の総会のほか、新年会を98年から始めました。新年会で人気のビンゴゲームは05年からです。

春と秋の日帰り研修旅行は98年から続け、最初から市のバスを利用しています。無料で助かりますが、旅行範囲が100キロ以内、当日午後4時ごろまでに岩崎台へ戻らなければなりません。観光バスでもっと遠くに、との要望が一部会員からあり、15年春に全会員にアンケート調査をしました。結果は、「市のバ

スでよい」と「観光バスでもよい」がほぼ同数。行き先についても「今まで位でよい」と「もう少し遠くに行きたい」に大きな差はありませんでした。

「岩崎台熟年友の会だより」は、13年1月から定期的に発行しています。会員の近況などを紹介する「お元気ですか」の記事が好評です。研修旅行記、催しの様子などのほか、15年4月から始めた「思い出映画館」の上映映画についても掲載しています。同年6月からは「熟年友の会健康マージャンクラブ」もスタート、16年4月からは女性マージャン教室も月2回、開いています。

友の会の活動を地域の人にもっと知ってもらうため、「岩崎台 熟年友の会」とネームを入れたベスト50着を15年7月に作り、催しや活動時に活用しています。

世代間交流、社会奉仕

99年秋から始まった自治会のふれあいウオークには、友の会の会員がスタッフとして毎回、20人ほどが参加。会場設営のほか、参加賞を渡したり、ホールインワンゲームを担当しています。福西美智子さんら女性会員が中心となって07年から「バルーンで遊ぼう」や「絵手紙体験」(09-10年)、11年から「お絵描きコーナー」を会場に開設、子どもたちが楽しんでいます。

自治会に所属するグラウンドゴルフクラブのメンバーの多くは友の会会員です。初代会長は高橋さん、2代目は山本さん、3代目は福西勉さん。地域の子ども会とのグラウンドゴルフ交流会、子どもたちへの指導は1999年から続いています。

16年春からは岩崎区内のバス通り、ハナミズキ通りの歩道や植え込みを毎月1回清掃する地域奉仕を続けています。

香久山小学校学童の下校時安全見守り活動は、石木さんの提唱で06年から続け、月に4-5回、学童の一斉下校時に活動しています。15年6月時点で協力隊員は22人です。「最初、世代間交流として子どもたちに声をかけるあいさつ運動として始めた。この運動のほか、当時の香久山小校長に頼まれ、シベリア抑留の体験がある成瀬悦司さんが、小学5年の2クラスで戦争の悲惨さを伝えた。たらいや洗濯板などの昔の生活について話した女性会員もいました」(石木宗夫さん)

毎年初秋の頃に香久山小学校の学童から、運動会への招待状が友の会の全員に届きます。ほほえましい文章の手紙は1年生が会員一人ずつに書き、6年生が宛名書きをしています。香久山のいきいきクラブ会員にも招待状を送っており、計約200通を書いています。学校からの依頼で、会員の名前と住所を毎年、友の会から知らせています。

毎年 8 月後半、夏休み期間の 1 週間ほど、もみじ公園で子ども会の児童と友の会会員がラジオ体操をしています。石木さんが会長のとき、子ども会のお母さんたちから協力していただけたら、と頼まれました。主に 1、2 丁目の会員 10 人ほどが朝 6 時半から子どもたちと元気よく続けています。

もみじ公園愛護会（99 年発足）、門木公園愛護会（04 年発足）、けやき公園愛護会（05 年発足）は自治会に所属していますが、会員の多くが友の会の会員。公園の清掃、花壇の手入れを続けています。

岩崎台防犯パトロール隊は 06 年春から活動を続け、15 年 8 月時点で隊員 20 人のうち 15 人が友の会メンバーです。

香久山学区家庭教育推進委員会主催の「ふれあいふるさとまつり」には、2001 年から友の会会員が毎年 10 人ほどが参加、紙飛行機やバルーンづくり、お手玉など昔の遊びを学童たちに教えています。もちつきのお手伝いもしています。また、同委員会主催のグラウンドゴルフ大会にも、友の会会員 6、7 人が子どもたちの指導をしています。

付 記

友の会創設に活躍された当時 60 歳代の方々が、2015 年春には 80 歳以上になりました。10 年前は会員の中に明治生まれが一人、大正生まれが 22 人でしたが、死亡や体調不良による退会などで、15 年春には大正生まれの会員は一人だけになりました。創立時からの女性会員の一人、高橋陽さんが創立時からこれまでに亡くなった会員を記録、しのんでおられます。その記録では、亡くなった会員は 15 年春までに 25 人です。ただ、記録漏れがあるかも知れない、との話でした。

元気で活躍しておられる古い会員も、当然のことながら創立前後の記憶が薄れ、当時の資料もかなり散逸しています。そこで元会長の話や関係者の手元にある一部資料、岩崎台区自治会の保存資料、老連や市地域福祉課が保存する申請書を参考に創立時の 1998 年から 2016 年までの歩みをまとめました。不十分なまとめですが、友の会をここまで育ててこられた方々の活動を少しでも伝えられたら、と思っています。そして 5 年後、10 年後の一層充実した友の会の歩みを今後付け加えていただければ、と願っています。

(2015・16 年度会長 浅野鴻一郎)